

株式会社ユーザーローカル 決算説明会資料

2017年8月10日

東証マザーズ市場

証券コード：3984

<http://www.userlocal.jp/>

目次

- ① 会社概要
- ② 当社事業内容
- ③ サマリー
- ④ 2017年6月期 実績
- ⑤ 2017年6月期 ハイライト
- ⑥ 中長期的な戦略
- ⑦ コーポレートメッセージ

① 会社概要



ユーザーローカル会社概要

会社名

株式会社ユーザーローカル

資本金

529百万円

社員数

36名（臨時雇用含まず）

本社

東京都港区芝5-20-6

事業内容

ビッグデータ・AIを活用した
マーケティング分析サービスを開発・提供

マネジメント・チーム

代表取締役 伊藤 将雄

早稲田大学大学院国際情報通信研究科修了
早大政経学部卒業後、(株)日経BP、楽天(株)、
みんなの就職(株)を経て大学院在学中から現職

取締役COO 渡邊 和行

千葉大学法政経学部卒業
楽天(株)を経て現職

取締役CFO 岩本 大輔

中央大学大学院戦略経営研究科修了
楽天(株)、メタウォーター(株)を経て現職

取締役(社外) 小澤 隆生

早大法学部卒業後、(株)CSK、楽天(株)執行
役員などを経て、YJキャピタル(株)取締役、
ヤフー(株)執行役員など現任

最高技術責任者 三上 俊輔

筑波大学大学院システム情報工学研究科
コンピュータサイエンス専攻修了

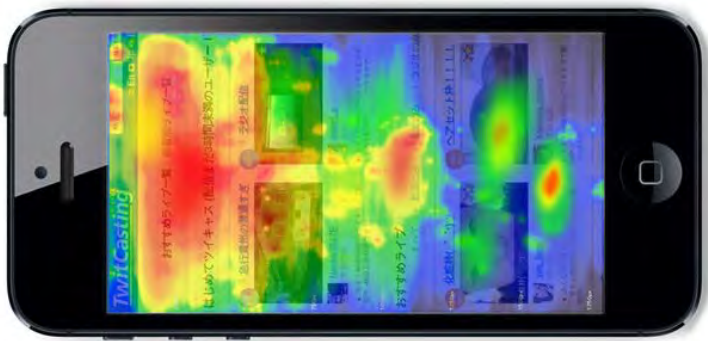
② 当社事業内容



企業のマーケティング活動を支援する ビッグデータ解析サービスを提供

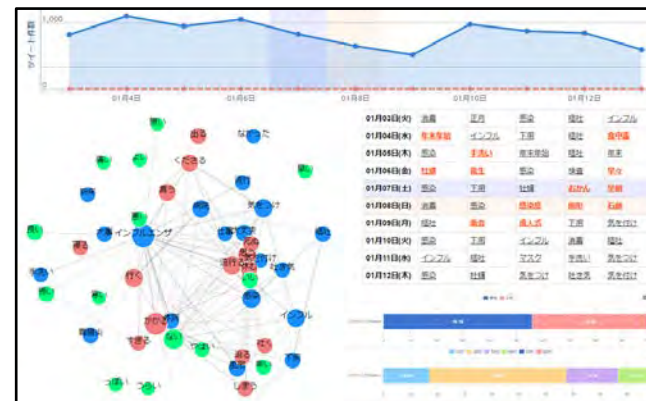
User Insight

ヒートマップ対応
ウェブ分析ツール



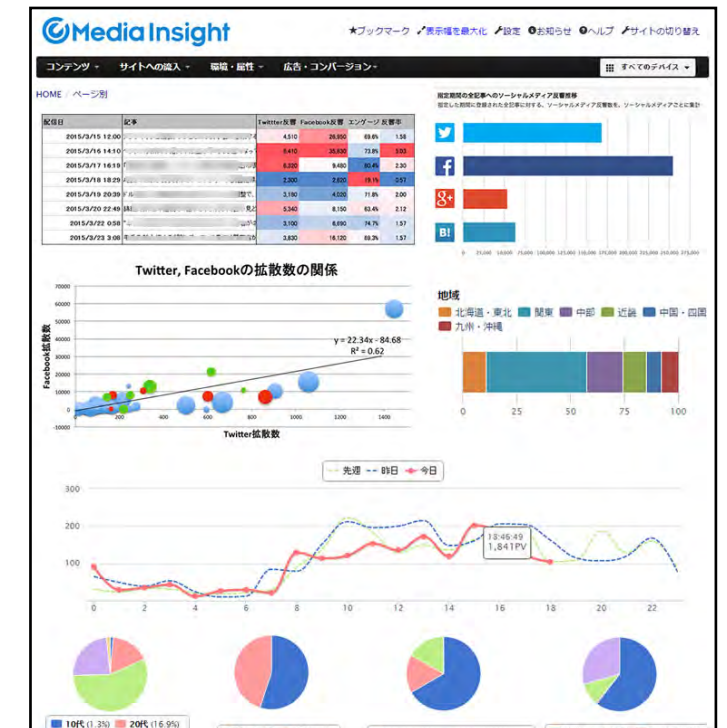
Social Insight

ソーシャルメディア
分析・運用ツール

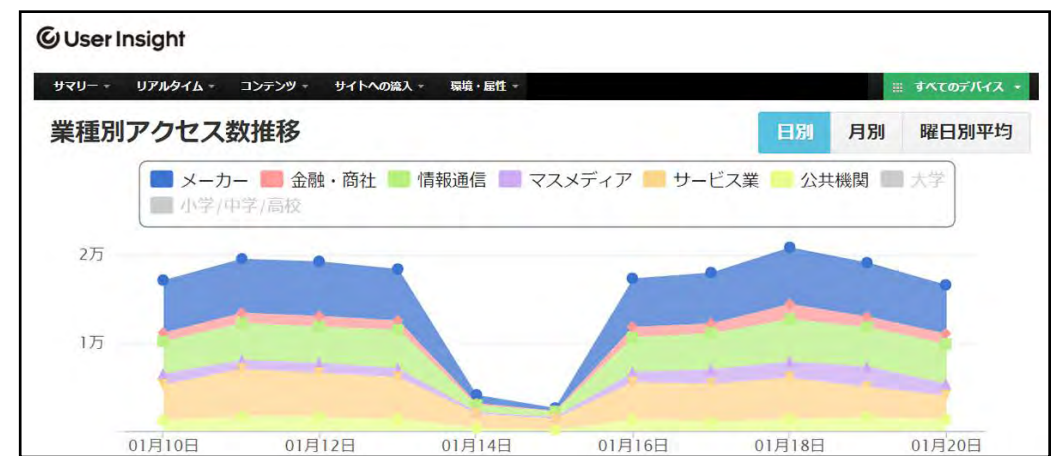
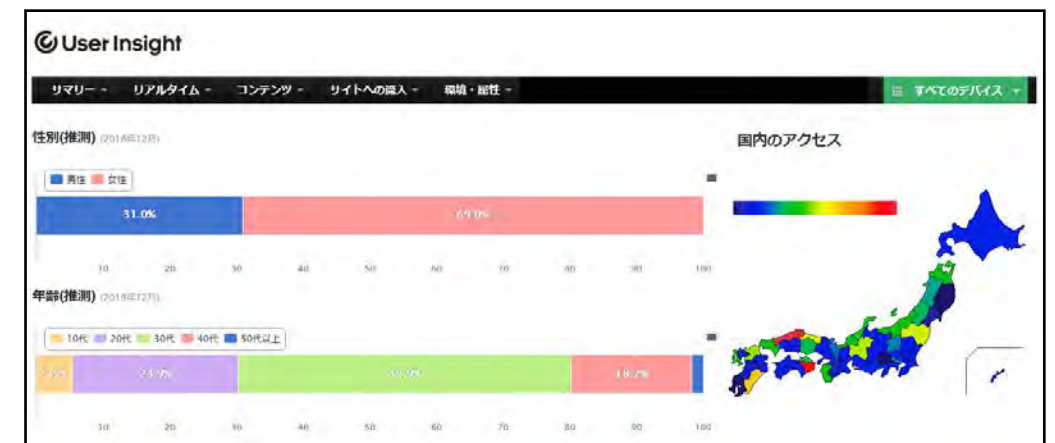


Media Insight

メディア運営者
特化型分析ツール



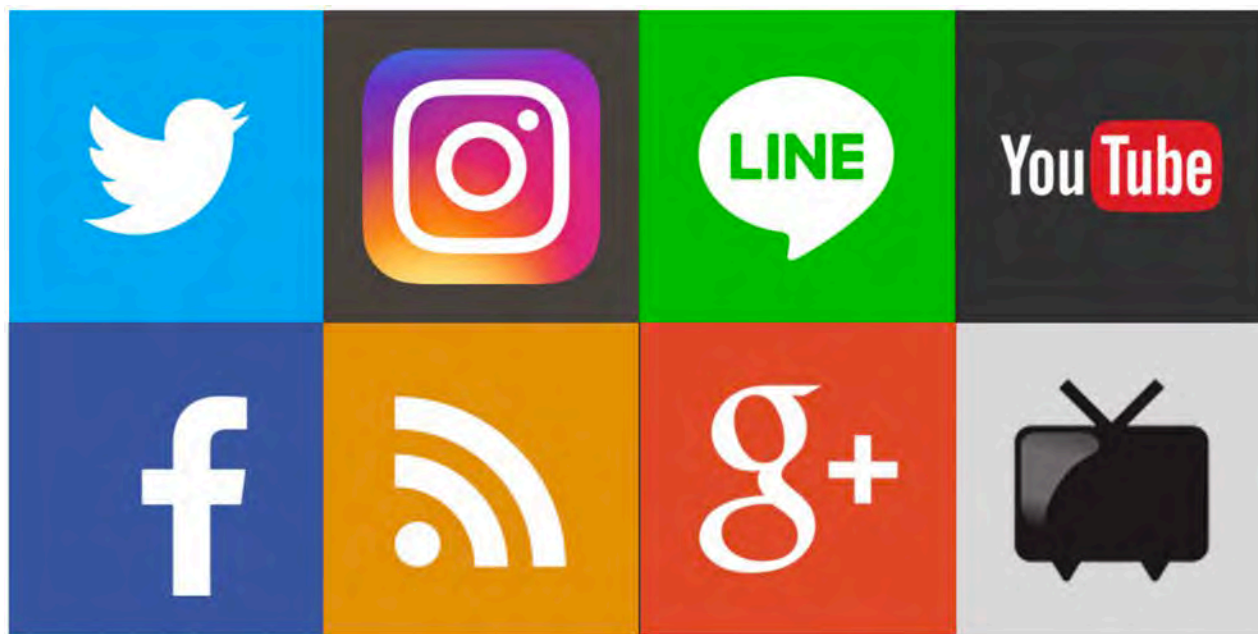
UXを測定するウェブサイト解析SaaS



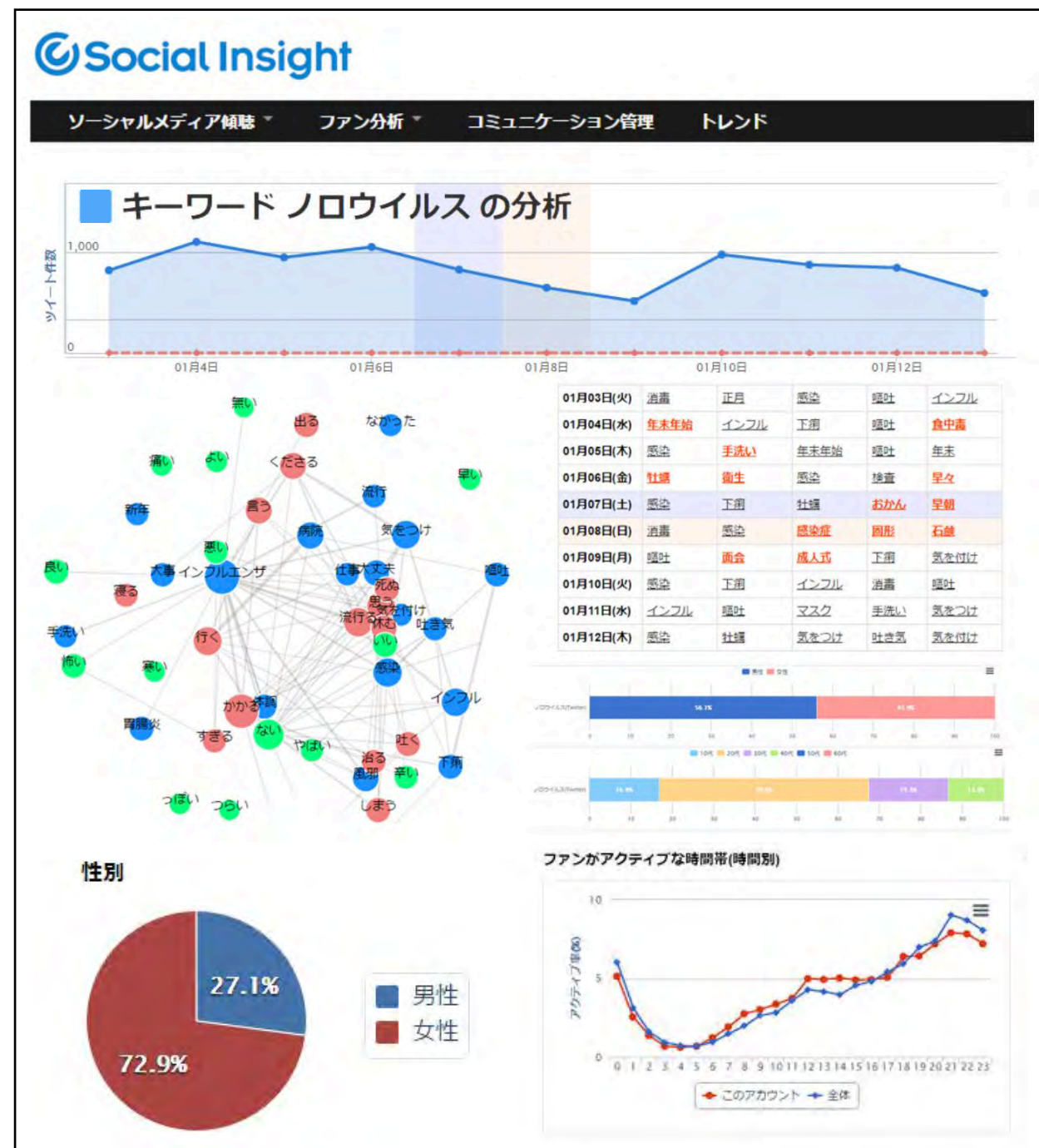
※UX…ユーザーエクスペリエンス。Webユーザーがサイトを通じて得られる体験(experience)の総称。

※SaaS…Software as a Serviceの略であり、利用者がインターネットを介して必要な情報システムに係るサービスを受けるクラウドコンピューティングの一形態。ソフトウェアをダウンロードすることなく利用可能。

SNSデータを分析するソーシャル解析ツール

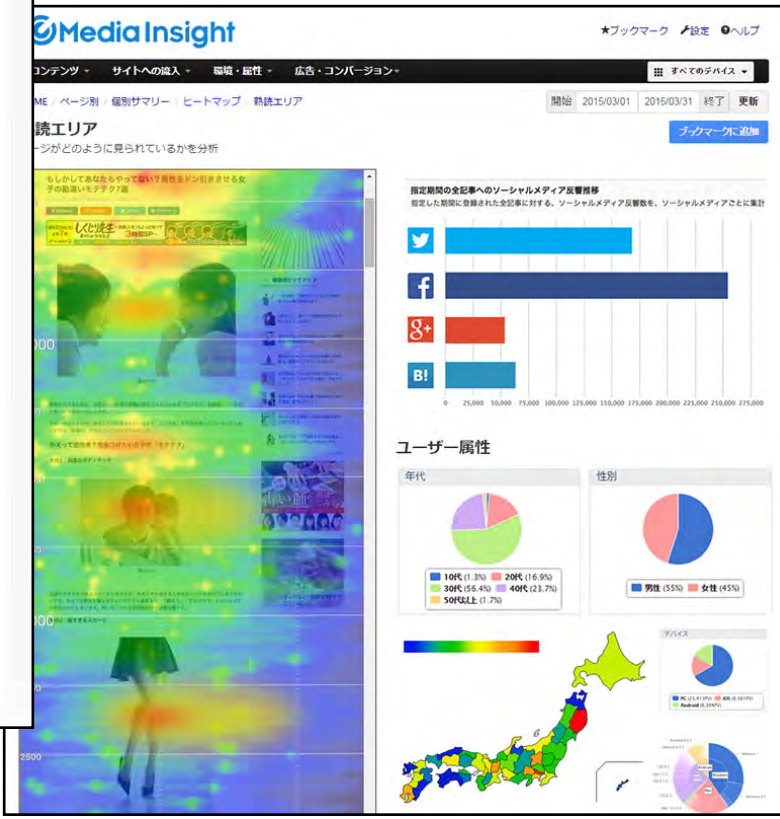
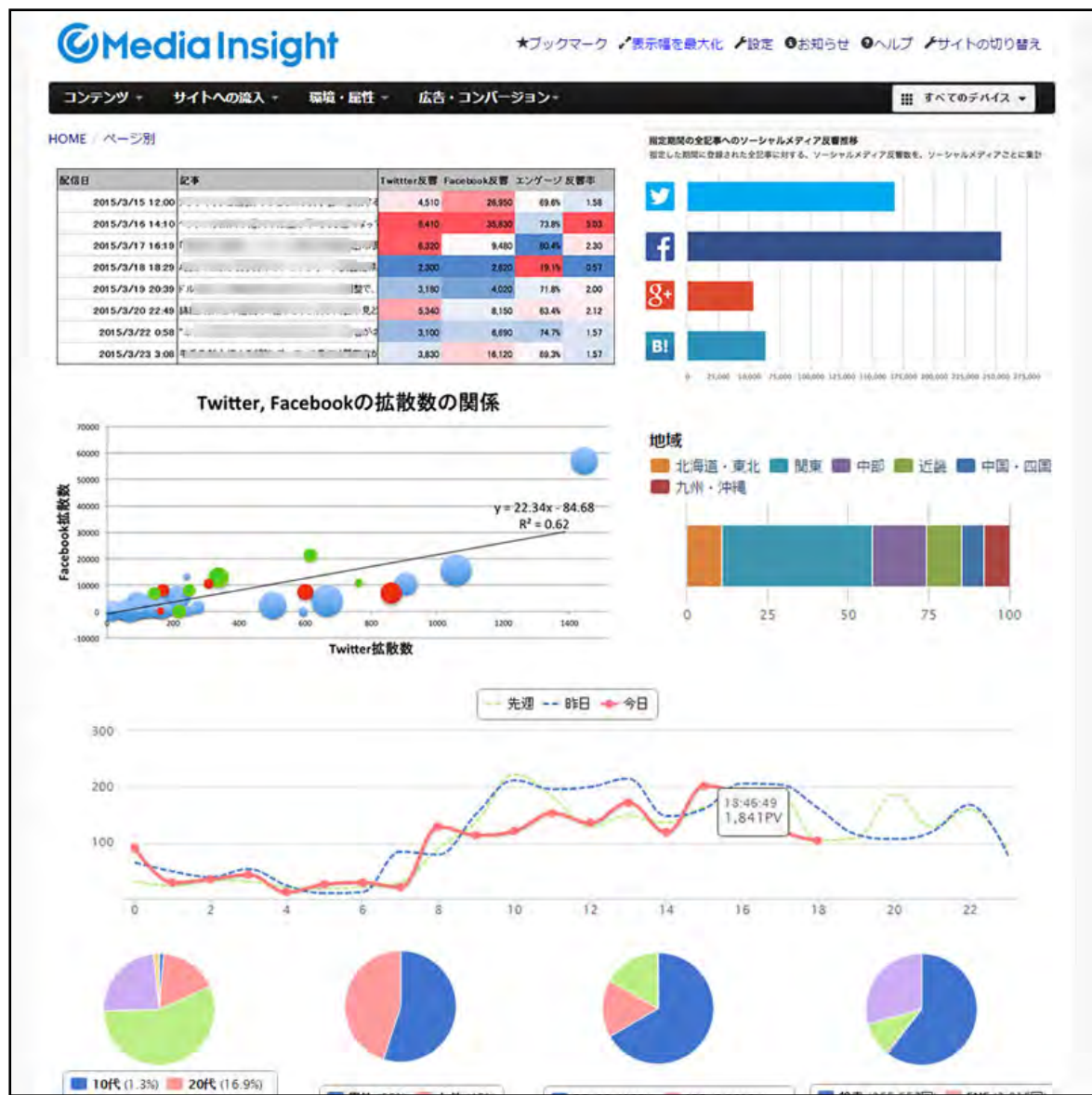


SNSマーケティングに必要なデータをカバー



メディア業界に特化した分析ソリューション

国内各媒体のヒット記事の反響を自動分析



③ サマリー



2017年6月期 業績サマリー

売上

966百万円
(935百万円)

経常利益

377百万円
(378百万円)

当期純利益

260百万円
(242百万円)

※カッコ内は業績予想

2017年6月期のサマリー

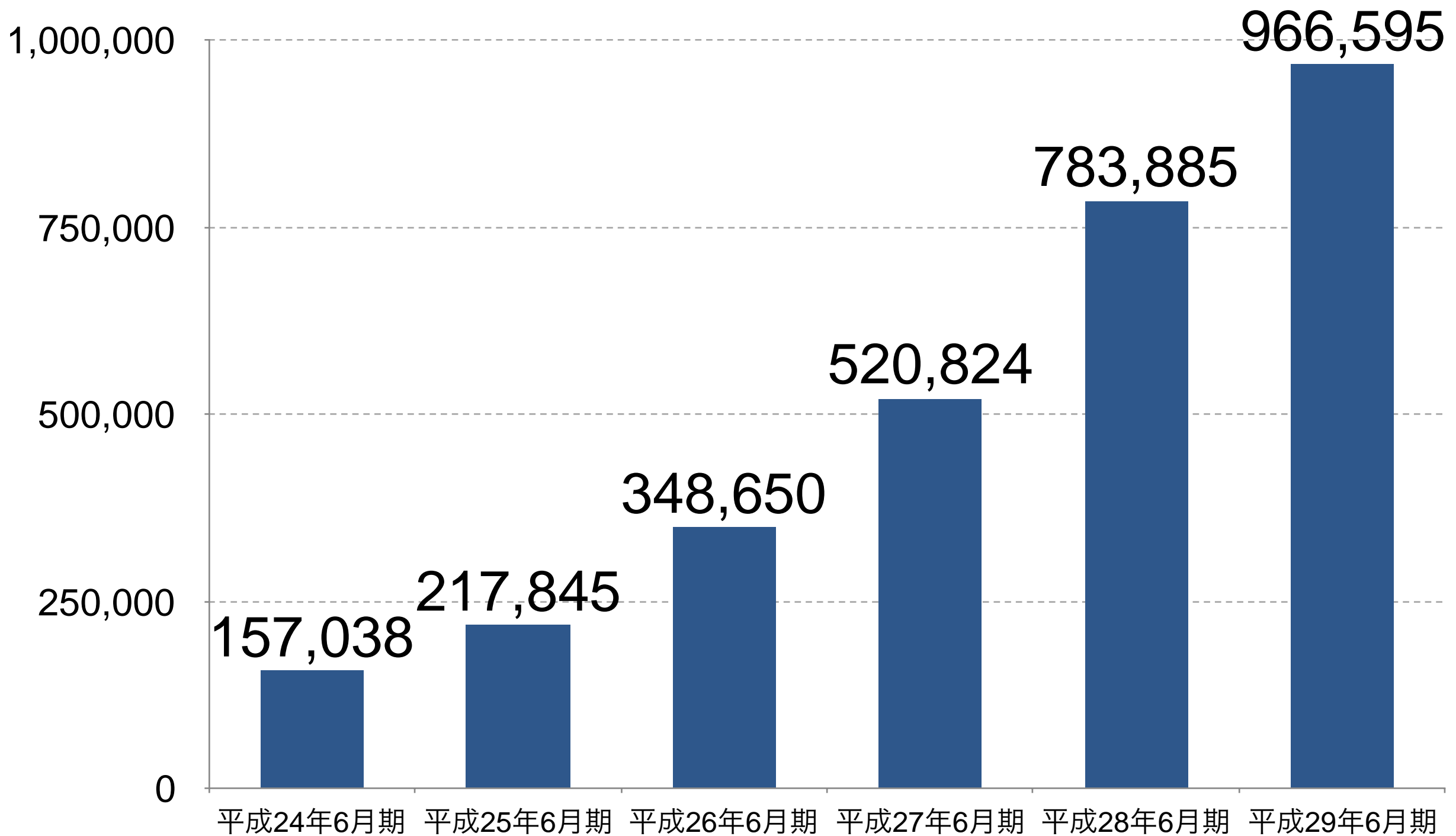
- ・ 2016年10月 講談社向けにチャットボット提供
- ・ 2017年1月 マーケティングカンファレンス開催
- ・ 2月 サポートチャットボットをリリース
- ・ 3月 東京証券取引所マザーズ市場へ上場
- ・ 5月 マストドン検索エンジン提供開始
- ・ 6月 チャットボットによる銀行業務効率化支援

④ 2017年6月期実績



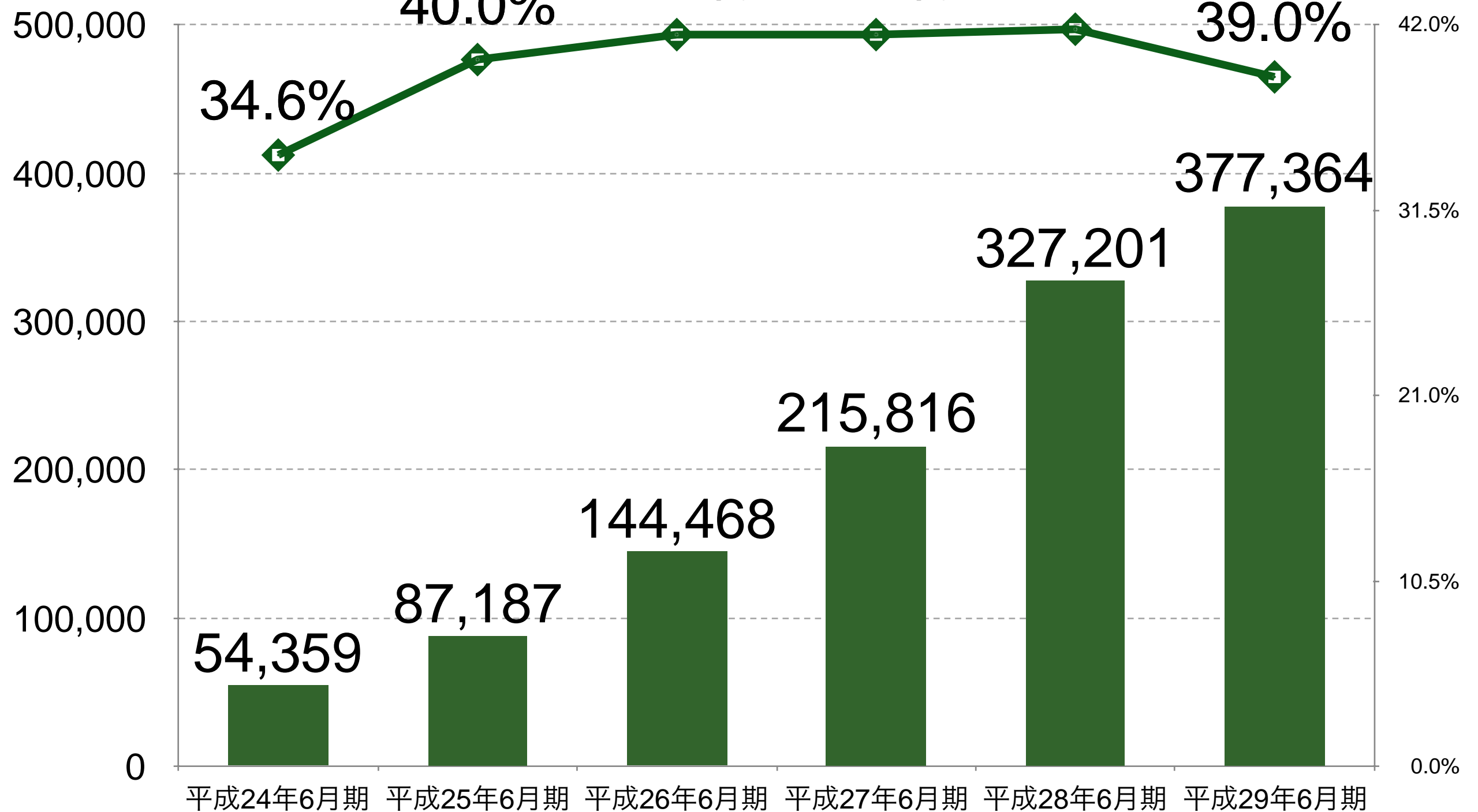
2017年6月期 実績 (売上高)

(単位:千円)

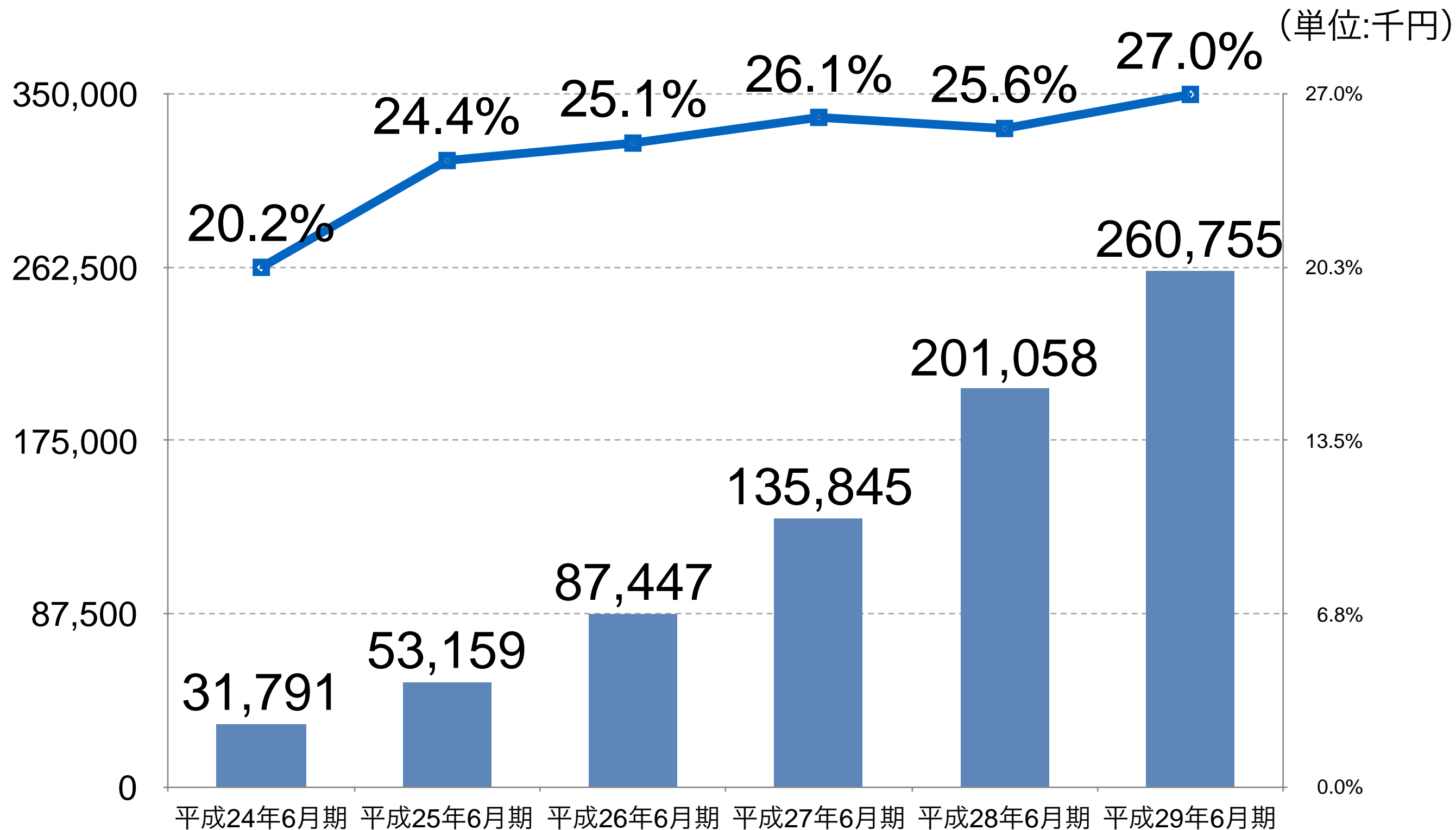


2017年6月期 実績 (經常利益・經常利益率)

(単位:千円)



2017年6月期 実績（当期純利益・当期純利益率）



2017年6月期 実績 (PL・CF)

(単位:千円)

	平成28年6月期	平成29年6月期
売上高	783,885	966,595
売上総利益 (売上総利益率)	703,182 89.7%	858,602 88.8%
経常利益 (経常利益率)	327,201 41.7%	377,364 39.0%
当期純利益 (当期純利益率)	201,058 25.6%	260,755 27.0%
EPS	61.86円	75.23円
営業活動によるキャッシュ・フロー	271,148	312,937
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 46,915	△ 48,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	212,030	546,570
フリー・キャッシュフロー	224,233	264,905

2017年6月期 実績 (BS)

	平成28年6月期末	平成29年6月期
流動資産	1,154,642	1,975,486
現金及び預金	1,061,863	1,873,339
売掛金	75,565	76,882
固定資産	76,975	90,854
有形固定資産	50,718	39,283
無形固定資産 (ソフトウェア)	2,116	1,256
投資その他の資産	24,140	50,314
資産合計	1,231,618	2,066,340
流動負債	195,865	215,347
未払い法人税等	93,767	72,206
前受金	59,313	81,272
未払消費税等	22,804	23,777
固定負債	-	-
純資産	1,035,753	1,850,992
資本金	252,265	529,507
資本剰余金	237,265	514,507
利益剰余金	546,223	806,978

(単位:千円)

⑤ 2017年6月期
ハイライト



2017年6月期ハイライト

AI製品立ち上げ

10月 講談社向けチャットボット提供

2月 サポートチャットボット公開

6月 銀行業務効率化を支援

新規上場

3月 東京証券取引所マザーズ上場

マーケティング強化

1月 自社カンファレンス開催

5月 マストドン検索エンジン

当社が開発した対話型人工知能の事例

2016年10月、講談社に会話AIエンジンを提供し、
小説の登場人物とTwitter上で会話できる、
チャットボットを開発した



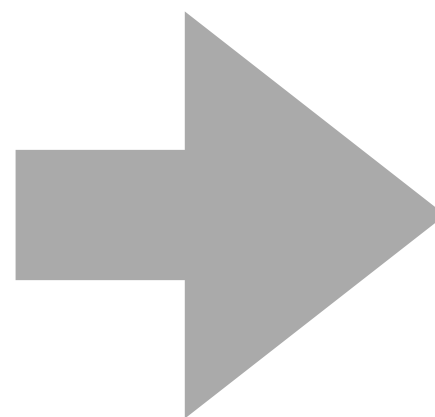
会話AIの活用事例として各種メディアに掲載

チャットボット製品を提供開始

データを機械学習させ、新たな価値を提供する

ソーシャルメディア等の
テキストデータを学習

AIによるチャットボット



収集した会話ログをもとに、自動会話プログラム開発

サポートに特化したチャットボットを開発

接触・認知

興味・関心

比較・検討

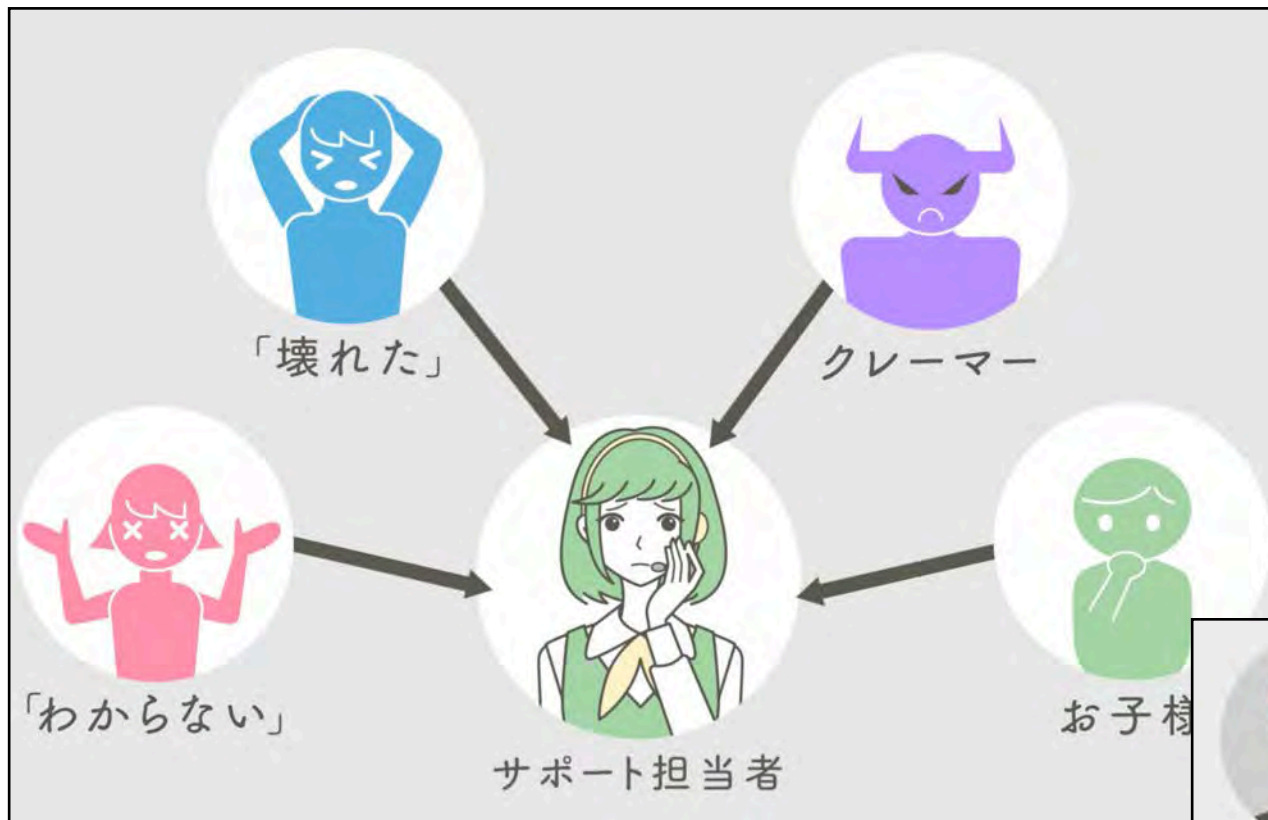
顧客化

維持・ファン化

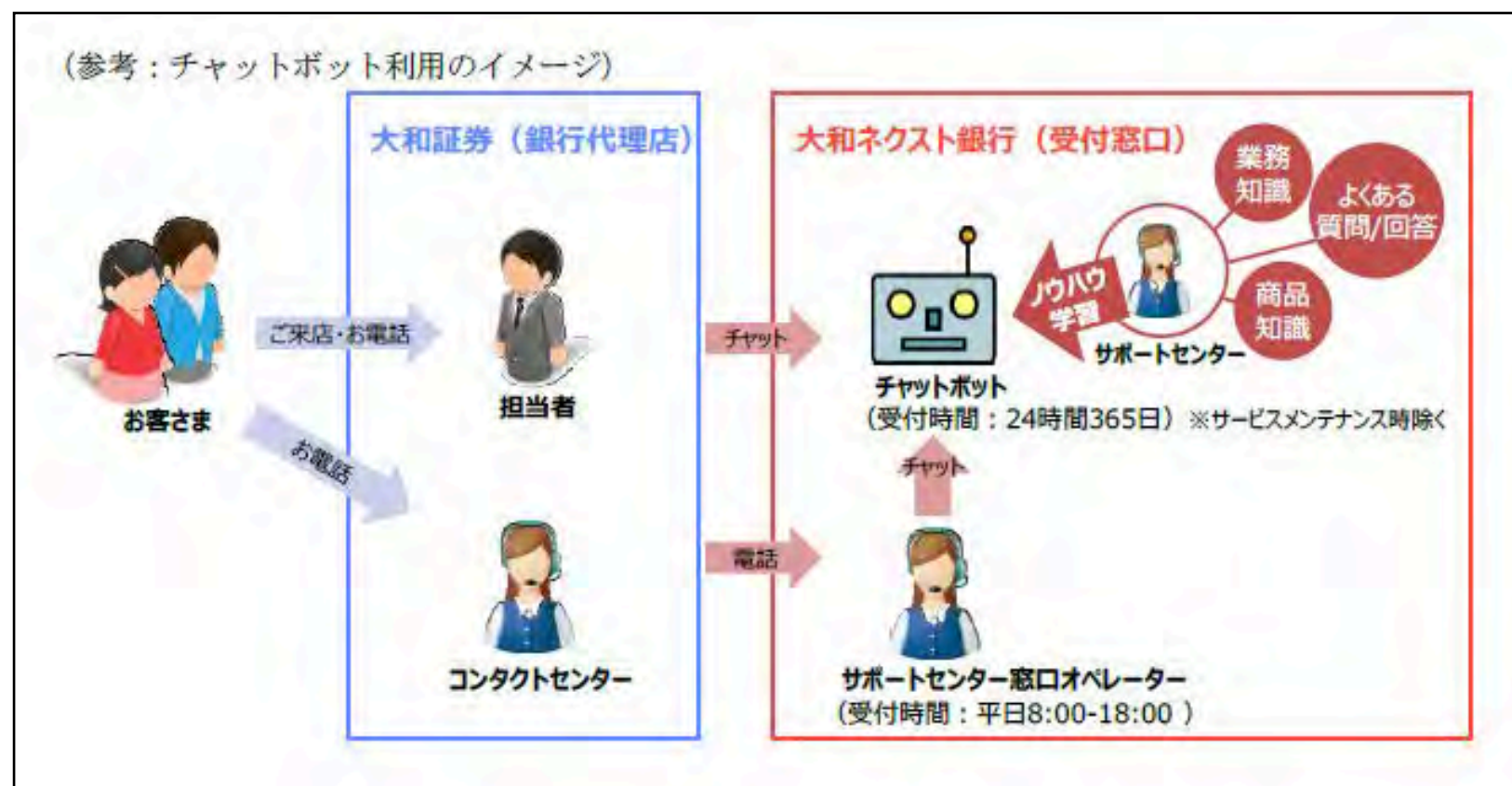
まずはコールセンターやサイトの
FAQシステムを効率化するSaaSを提供

 **User Local** サポートチャットボット

サポート担当者の業務を チャットボットが支援



導入事例 大和ネクスト銀行様社内チャットボット



(大和ネクスト銀行様資料)

銀行の行内紹介業務をチャットボットが学習サポート担当者の不在時も自動対応が可能に

2017年1月10日に、マーケティング担当者向けに データ解析と人工知能に関する自社カンファレンスを開催



- ・ 御茶ノ水ソラシティ
- ・ 先端的なデータ活用事例
9講演を実施
- ・ マーケターが多数参加

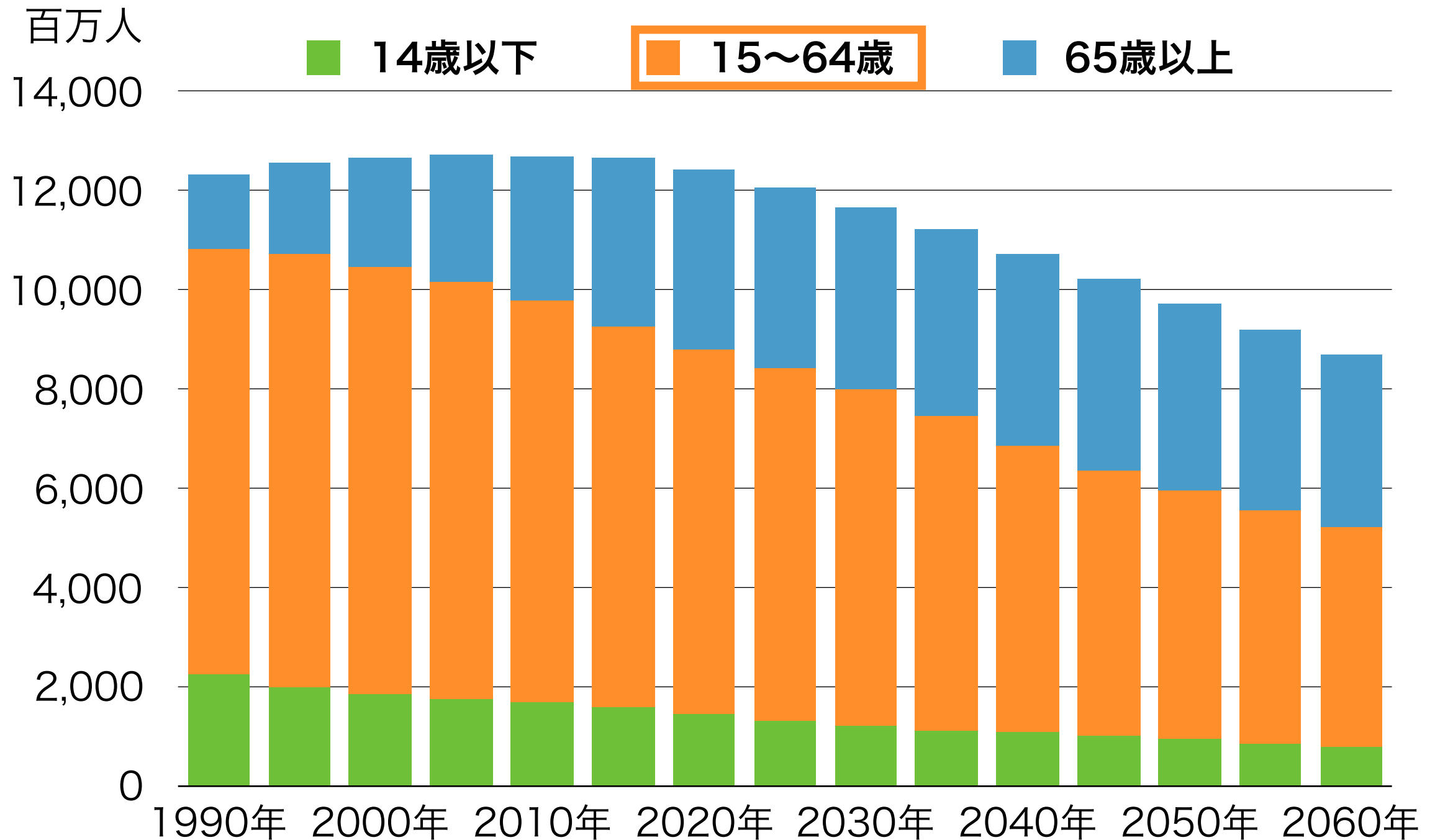
Facebook様、東洋経済様、ハフィントンポスト様などがご登壇



⑥ 中長期的な戦略



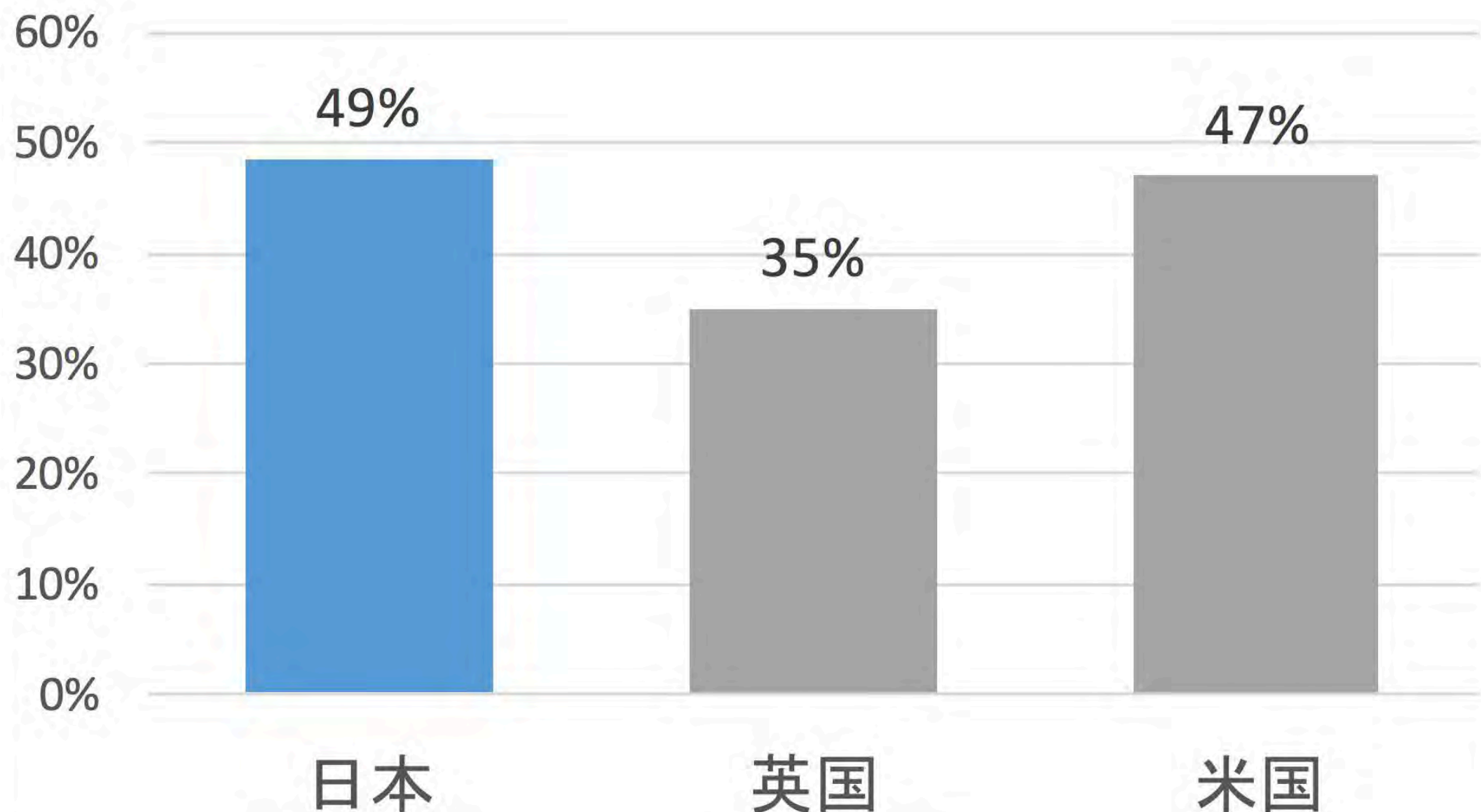
国内生産人口は減少が見込まれる



出典: 2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)

今後の生産人口減少・「働き方改革」に対応したソリューション提供にフォーカス

人工知能やロボット等による代替可能性が高い労働人口の割合（日、英、米比較）



出典：野村総合研究所 日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に
～601種の職業ごとに、コンピューター技術による代替確率を試算～（2015年12月2日）

ビッグデータから人工知能へ

ビッグデータ + 機械学習・ディープラーニングでより高度なAIを

既存製品



既存製品を高度化



展開可能性領域



集計/可視化



サイトUX測定



自動応答



営業自動化



文章自動作成



SNS運用支援



コンテンツ評価



パーソナライズ



画像認識



経営支援

人工知能分野の研究開発注力

2018年6月期は、ディープラーニングを活用した人工知能サービスを開始予定

研究開発体制を強化して
次世代サービスの創出を目指す

ディープラーニングを活用した ソリューション提供を予定



画像認識サービスを開発中

2018年6月期の業績見込み

ビッグデータから人工知能事業
への飛躍のための投資時期

売上高 1,064百万円 (10.1%増)

営業利益 408百万円 (6.0%増)

経常利益 408百万円 (8.1%増)

当期純利益 265百万円 (1.7%増)

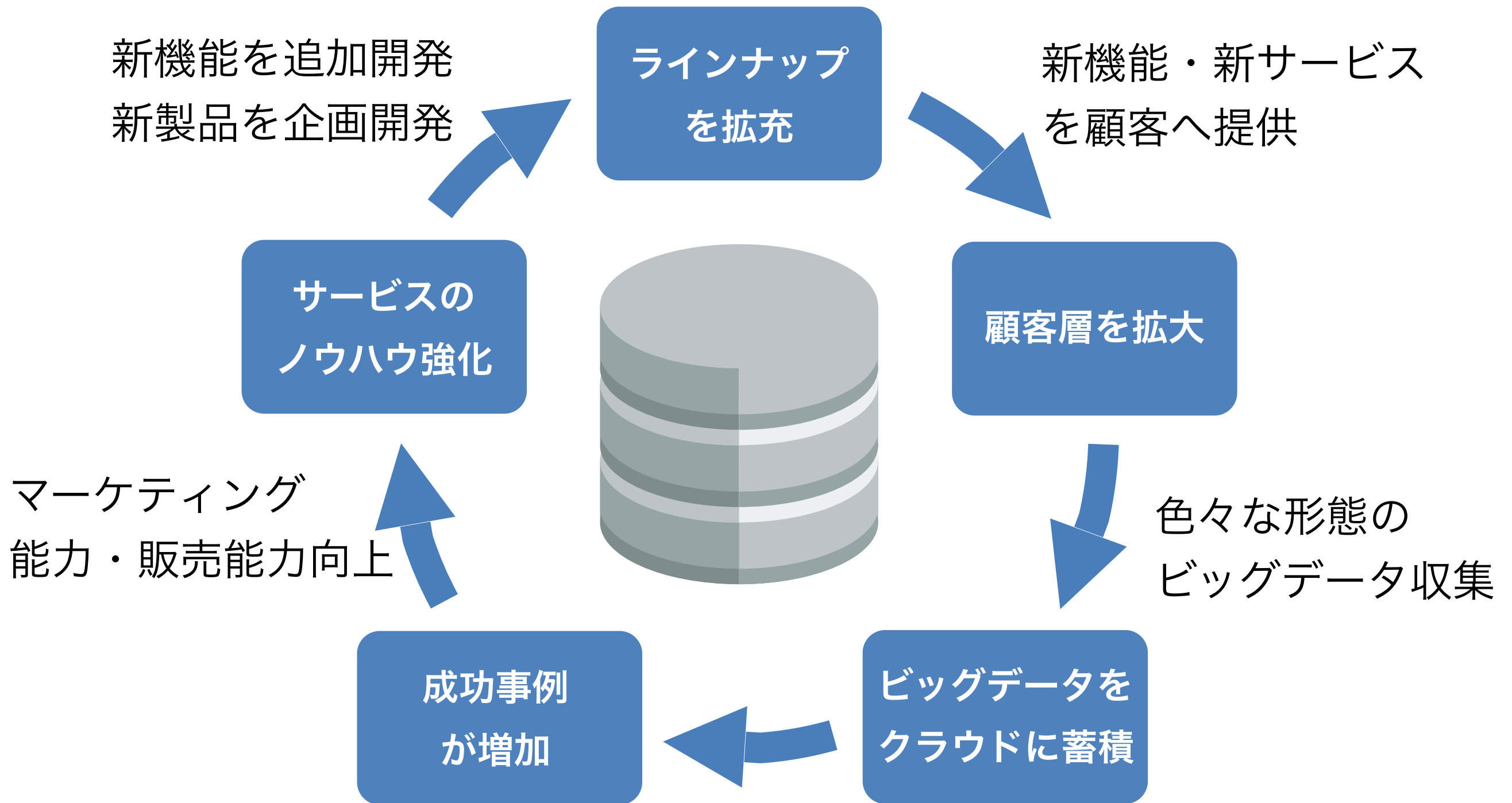
⑦ コーポレート・メッセージ



ユーザーローカル 経営理念

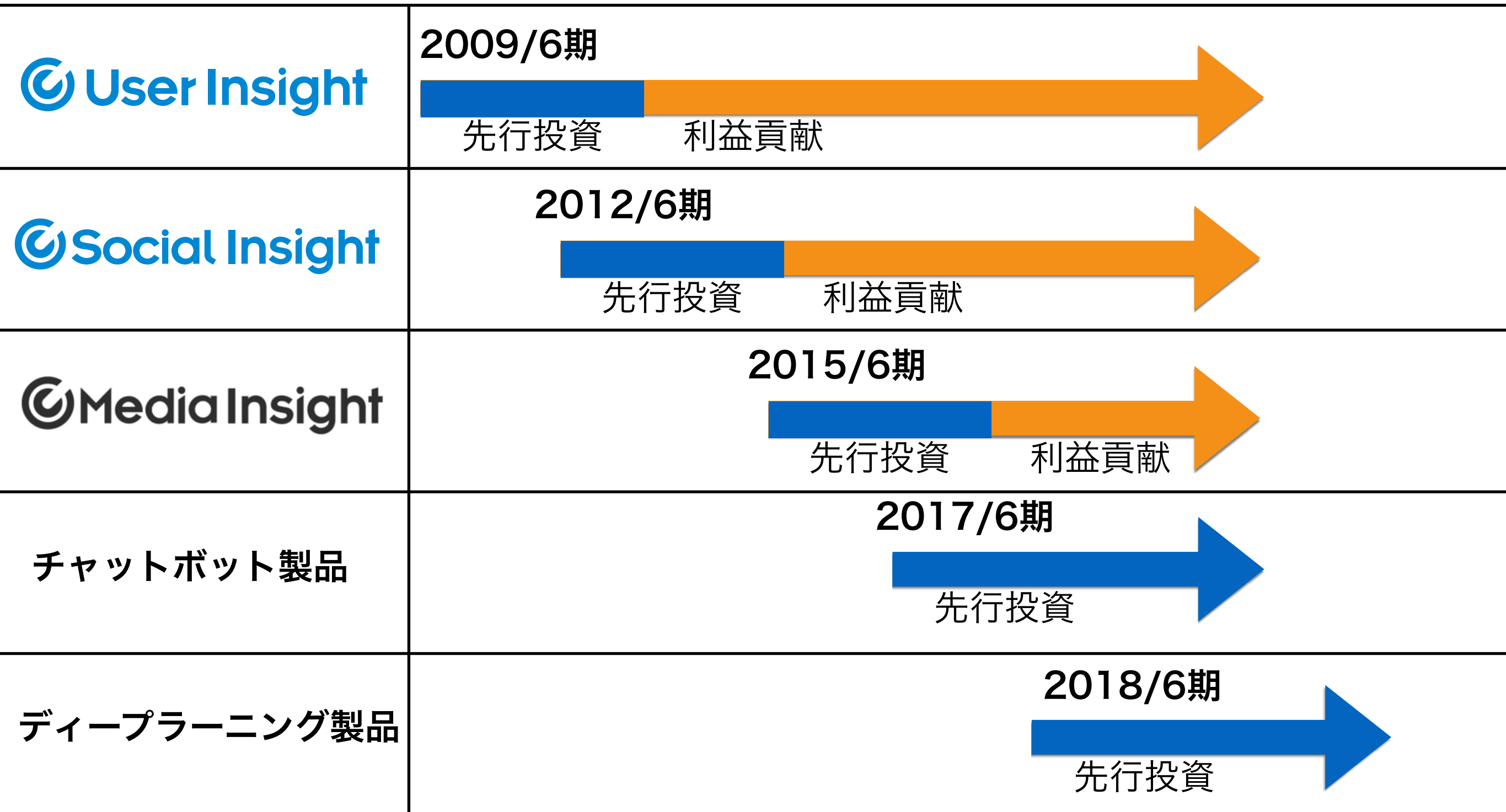
ビッグデータ×人工知能で
世界を進化させる

当社の成長サイクル



ソリューションを展開

製品のライフサイクル



本資料にかかる注意事項

- ・この資料は投資家の参考に資するため、株式会社ユーザーローカル（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- ・当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- ・本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。
- ・これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ・それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ・今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。